

# 「玄怪録」と「伝奇」

続・古代中国の語り物と説話集 — 志怪から伝奇へ —

高橋稔 著 / A5判 312頁 / 本体 2400円 + 税 978-4-497-21820-9

唐代の説話集の中から、六朝以来の「志怪」の特徴を残している「玄怪録」(牛僧孺撰)と、創作的な要素が強く、話のおもしろさを追究する姿勢が見られる「伝奇」(裴鉉)を訳出し比較する。また京都大学中国語中国文学研究室がレポジトリ公開した「魯迅『古小説鈎沈』校本」(中島長文校・伊藤令子補正)で新たに加えられた「列異伝」の五種の話の訳出し、前著を補った。さらに、語り物研究の参考資料とも言える「私の語り物研究遍歴とこれからの課題」を附す。

目次	序
	古小説鈎沈「列異伝」補遺(『古代中国の語り物と説話集』第二章第四節の補遺)
	玄怪録……全31話の翻訳と解説
	伝奇……全23話の翻訳と解説
	「玄怪録」と「伝奇」(まとめ)
	私の語り物研究遍歴とこれからの課題
	跋

「玄怪録」○翌日、別れを告げて門を出ると、もう將軍の屋敷は消えていて、ただ何もない丘があるだけだった。望は無然たる気持ちで引き返し、野狐泉に行き、土地の人に聞いてみた。(鄭望) ○獵師が矜を訪ねて来た。犬を數十匹連れていて、その犬たちが飛び込んで行って、たちまち矜の妻と子供を噛み殺した。すると、三人の死骸は狸になった。(淳于矜)

「伝奇」○その晩、果たして娘の行方が分からなくなった。……五年経って、例の尼がひょっこり隠娘を送り届けて来た。尼は鋒に言った、「教えることは全て終わりました。この子はお返し致します」。そう言い終えると、尼の姿はふっと消えてしまった。(聶隱娘) ○「昔、王使君の娘がここで急死してしまいました。それは綺麗な娘さんでしたが、昼間その魂がここに現れることがあると言いますから、若旦那様ご用心なさいませ」。(曾季衡)

好評  
発売  
中

## 古代中国の語り物と説話集

高橋稔 著 / A5判 232頁 / 2017年11月刊 / 本体 2400円 + 税 978-4-497-21714-1

荊軻の始皇暗殺の物語など六朝時代以前の古い語り物から語りのリズムの痕跡を追究する。また「搜神記」や「幽明録」といった「志怪小説」の生みの親「列異伝」の逸文50種を翻訳。志怪小説と語り物が相互に与えた影響を見る。

東方書店 【中国・本の情報館】 <http://www.toho-shoten.co.jp>

東京店舗 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-3 ☎ 03-3294-1001 / FAX03-3294-1003 / shop@toho-shoten.co.jp  
 通信販売 〒175-0082 東京都板橋区高島平 1-10-2 ☎ 03-3937-0300 / FAX03-3937-0955 / tokyo@toho-shoten.co.jp  
 関西支社 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町 2-6-1 ☎ 06-6337-4760 / FAX06-6337-4762 / kansai@toho-shoten.co.jp